

特集

## 全国よい仕事研究交流集会2016

市民の手、市民の主体的力による新しい地域、新しい社会づくりは可能か  
協同労働・社会連帯による地域からの新しい生活・文化運動の創造へ

2016年2月27日～28日（1日目：ニーショーホール645名、2日目：明治大学駿河台キャンパス592名）で「全国よい仕事研究交流集会2016」（主催：日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会 共催：一般社団法人 協同総合研究所）を開催しました。

よい仕事研究交流集会全体会では、一言でいえば「よい仕事の輪郭」が実践を伴って明確にされた集会になったのではと考えています。それは4つの実践の振り返ること「当事者主体」「地域づくり」「仕事おこし」「職場づくり」を前面に打ち出したことと、よい仕事が一人ひとりの組合員の生き方や考え方を元に個人の尊厳を発展させる基盤になることを共有しました。本号には全体会感想文の一部を掲載させていただきましたが、その中にはワーカーズコープで働く仲間が全国連帯の学びの場としてのダイナミズムと自分たちの事業・運動を客観的に振り返る場面になり、一人ひとりの生き方、働き方と当事者主体の社会づくりへの挑戦、そして自分たちの歴史を振り返る場面になったと感じています。特に生活困窮問題を焦点にして、仕事の業種の縦割りを超え、横に横断するものとして、困窮者が当事者となり自らが地域づくりの主体とした取りくみが全国で広がっていることを実感する集会になりました。

また集会から今後の協同労働の協同組合運動に問うものが多くありました。例えば「（協同組合・各業種）の専門性とは」「支援者と非支援者を超えることとは」「協同労働の協同組合のリーダーシップとは」「当事者になることとは」「地域づくりの主体形成とは」などです。いくつかのテーマは今までも本研究誌上で特集として取り上げたことがあります。引き続き研究課題として全国の仲間や会員の皆さんとともに深め合えればと考えております。

当初、よい仕事研究交流集会全体を本号1冊の特集としてまとめようと考えましたが、総ページ数が240ページほどになることが想定されたため、2ヵ月間にわたり「全国よい仕事研究交流集会」を特集として組むことにしました。そこで本号は2月27日全体会の中身の特集として組み、次号は分散会ならびにより仕事を深め、研究する号として特集を予定しています。会員の皆さんには本号と次号をセットでお読みいただき「協同労働の協同組合」の現段階の到達点や今後の展望、課題を深め、よい仕事を「研究する」ことに役立てていただければ嬉しく思います。

※本集会の感想・ご挨拶で島根県雲南市の板持周治さんから小規模多機能自治推進ネットワークと雲南市地域自主組織の取り組みを話していただきました。その中身は協同の発見誌278号（2016年1月発行）と重複しますので、ご興味のある方はお読みください。

（協同総研 相良孝雄）